

(3) 育成率・生存率

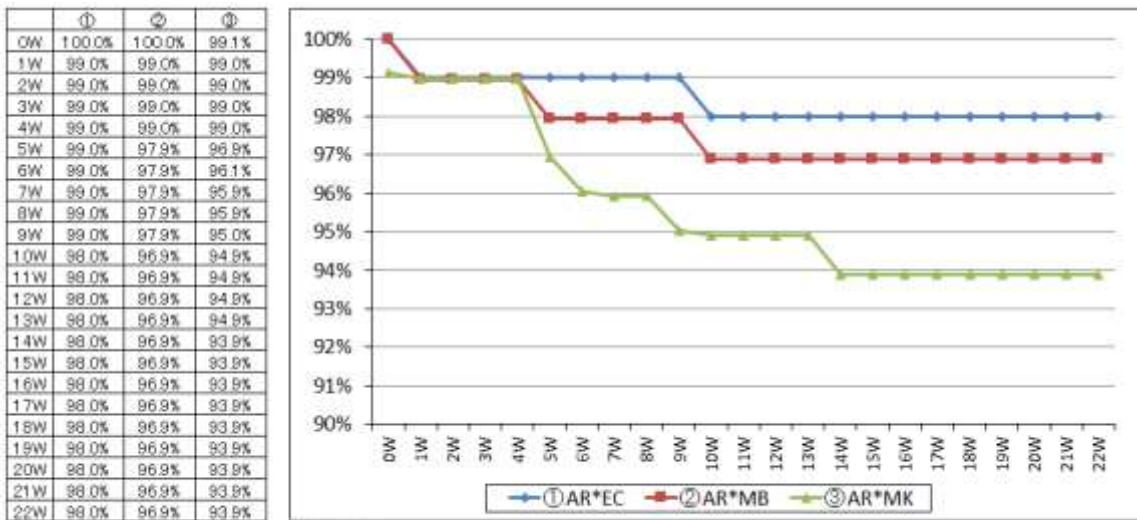
ア 育成率

a アロウカナ交雑 (表8・図5参照)

①～③のアロウカナ交雑において、特に目立って育成率が低かった「③AR×MK」は、1日齢で弱雛により斃死、5週齢から14週齢にかけて運動器病・削瘦・交差嘴が発生し、検定終了時の22週齢(154日齢)までの育成率は93.9%であった。

次いで育成率が低かった「②AR×MB」は、1週齢で弱雛により斃死、5週齢から10週齢にかけて運動器病により淘汰され、育成率は96.9%であった。

「①AR×EC」は、1週齢で弱雛、10週齢で循環器病により斃死し、育成率は98%であった。



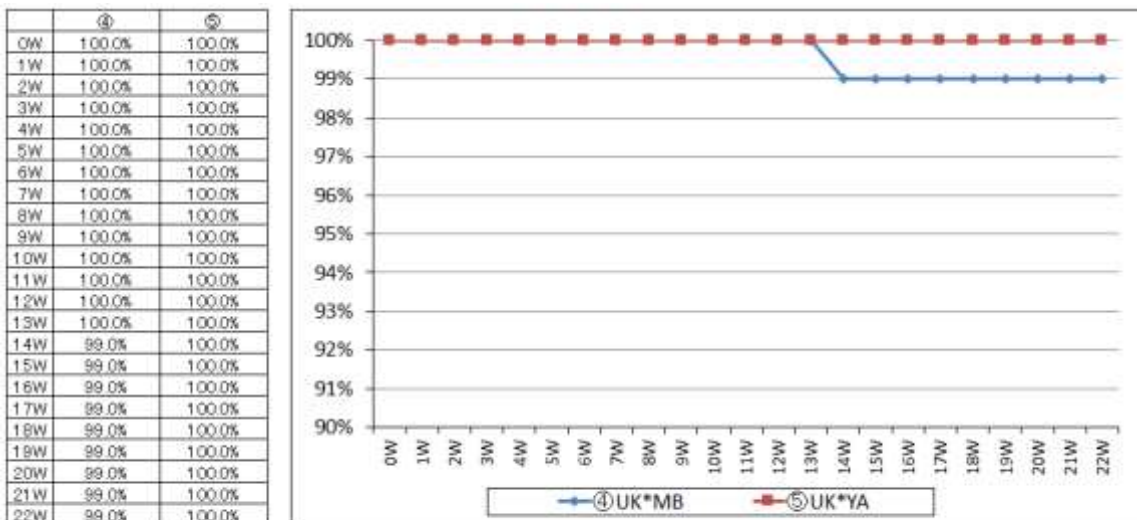
※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率。
 ※ 22Wは154日齢時(1日間)の育成率。
 ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰等)は、育成率算出より除外(入付羽数から除外)。

(表8・図5) アロウカナ交雑の育成率の推移

b 烏骨鶏交雑 (表9・図6参照)

④～⑤の烏骨鶏交雑において、「④UK×MB」は、14週齢頃に首曲がりにより淘汰されたが、その後は特に目立った症状は認められず、育成率は99%であった。

「⑤UK×YA」は、期間中の斃死・淘汰はなく、育成率は100%であった。



※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率。
 ※ 22Wは154日齢時(1日間)の育成率。
 ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰等)は、育成率算出より除外(入付羽数から除外)。

(表9・図6) 烏骨鶏交雑の育成率の推移